

コロナ3年目となった夏インターンシップ

「Y 大学：就職支援室 室長」

今年は、どうかな？ おおきな期待と、少しだけの不安を抱えながら始まった夏インターンシップ。本学では、例年どおり5月からインターンシップ説明会を始めました。7月の二次募集受付終了まで断続的に開催しました。教室での対面開催に加えて、Zoom生ライブ、そして、オンデマンド配信の3つの方法の組み合わせです。

夏インターンシップの参加申込者は272人。前年を80人上回り、ほぼコロナ前の水準となりました。これまでのような不安の声は聞かれなかったように感じます。長引くコロナ対応に慣れてきたことに加えて、受入先機関による丁寧な情報開示が功を奏したものと思います。

マッチング成立で実施可能となった者は258人。皆さん元気に就業体験に出かけたかと思いきや、今年目立ったのは、学生の辞退です。濃厚接触者になったり、他の用件と重なったり。当日（あるいは数日前）の体調不良による辞退もありました。受入準備をしていただいた企業等の皆さまには、たいへんご迷惑をおかけしました。この場をお借りしてお詫び申し上げます。なかには、受入先のご配慮で、別日程で参加できた学生もおりました。ありがとうございました。

インターンシップは就職活動ではないけれど、就職活動に効く学びの機会だよ。学生たちにはそんなことを話しています。ここで体験をすることで、一步社会人に近づく。なにより自分がこれからの大学生活で学ぶべき課題が見つかる。いや、見つける。この夏の貴重な学びの場を意識させて送り出したつもりです。学生たちの報告を受けて、素敵な学びがここにあったことを確認しました。それぞれに、これからの学生生活に活かしてくれるものと思っています。

産学協議会による新しいインターンシップの定義、三省合意の改訂、いまインターンシップは岐路にたっているように見えます。が、基本は変わっていないと認識しています。それは、学生にとって「学習」の場であること。結果的に就職活動につながることはあるかもしれません。それはそれでいい。だからと言って、これは就職活動（＝採用活動）かという、それは違う。新しい時代のインターンシップのあり方について、企業等の皆さま、学校関係者の皆さまと多めに議論をしながら「山口で、インターンシップ！」を推進していけたらと思うだけです。

まだまだ困難な状況が続くなかで、学生たちを受け入れていただいた企業・官公庁等の皆さまには、厚くお礼申し上げます。また、山口県インターンシップ推進協議会コーディネーターの皆さまには、ご尽力いただきありがとうございました。これから春インターンシップもあります。引き続き素敵な学びの演出を、どうぞよろしく願いいたします。

令和4年度インターンシップを実施して

「G 短期大学：芸術表現学科」

本学では、前期・後期の通年の授業「インターンシップⅠ」の中で8月の夏季休業中に職場体験を実施しています。履修が決まると、インターンシップの仕組みや心構えなどについて授業の中で指導をしていきます。その後学生達は、山口県インターンシップ推進協議会のホームページにアクセスし、県内の事業所のリストの中から自分が希望する職場や職種を選んで申し込みをします。本学ではデザインを専攻する学生が多くなり、デザイン関係の会社を希望する者が多くなっています。

入学直後で将来の進路について確たる目標を持っていない学生にとっては、インターンシップ先企業の選択も一苦労で多くの時間を費やしています。最終的にはほとんどの学生は第3希望まで選び、希望の理由を記述しており大学でまとめて山口県インターンシップ推進協議会に申し込みをします。

今年もインターンシップ推進協議会のご尽力により、受講生17名全員がインターンシップ先を決めることができました。学生たちは、体験する事業所が決まると電話で事前の打ち合わせを行いました。授業では電話のかけ方や言葉遣いなど簡単な事前研修を行っていますが、学生にとっては初めての経験でもあり、日頃の会話と違って大変苦労したのではないかと思います。

夏休み前の授業では、インターンシップ実施にあたっての注意事項や報告書の書き方などについて指導し研修先へ送り出しましたが、アルバイトをしたこともなく、初めての体験だった学生も多く、事業所の方々には大変ご迷惑をお掛けしたと思います。しかし、どの事業所の方からも、学生たちが将来一人前の職業人として働けるよう温かいご指導をいただきました。本当にありがとうございました。

インターンシップ体験後のアンケートでは、「今回のインターンシップを総合的に評価して」との問いに、99%の学生が「満足」、「どちらかといえば満足」と回答しています。また、「インターンシップで得られたこと」との問いには、「コミュニケーションの大切さを感じた」、「挨拶の大切さを感じた」、「連携や協調性の大切さを感じた」、「主体的に取り組むことの大切さを感じた」、「マナー常識の大切さを感じた」の5つの項目については全員が「強くそう思う」、「そう思う」と回答しています。

本学では、「インターンシップⅠ」や「インターンシップⅡ」、「社会人基礎」、「キャリアデザイン」などの授業を通して社会人基礎力の育成に力を入れており、担当者としてアンケートの結果等を踏まえ、一層充実した授業になるよう取り組んでいます。

毎年のことですが本学の学生は、やや内弁慶なところがあり、一步外に出ると思うように自分を表現することが苦手な学生も多く、その壁を超えることが課題の一つです。そういう学生にとって、職場を直接体験できるインターンシップは大学の授業だけでは身に付けることが難しい、多くのことを学ぶことができる絶好の機会となっています。9月末から後期授業が始まりました。学生たちの学びの姿勢も心なしか積極的になったように感じています。企業の方々には、学生を受け入れることは大きな負担でしょうが、「将来のある若者を育てる」という理念に多くの企業が賛同され、学生を積極的に受け入れ、熱心にご指導いただきましたことに対し心から感謝申し上げます。

おわりに、本年度のインターンシップにご尽力いただきました山口県インターンシップ推進協議会の皆様を始め、直接ご指導いただきました各事業所の関係者の皆様に重ねて厚くお礼申し上げます。

学生がインターンシップを終えて

「S 大学：現代社会学部 准教授」

近年、大学を卒業し、就職してもさまざまな理由で離職する人がいます。厚生労働省が令和3年10月に発表した資料によれば、就職後3年以内の離職者率は、前年度より現象したとは言え、大卒で、31.2%と報告されています。いくつもの企業のチャレンジし、やっと就職したにもかかわらず、離職を決心するという厳しい現状をしっかりと受け止める必要があります。就職は経済的に、さらに精神的にも自立した社会人として歩む第一歩でもあります。

本学では、民間企業による「プログテスト」を導入したり、就職ガイダンスを年間6回実施したりして、4年間を通して就職活動を支援する体制を作っています。しかしながら本学においても、厚生労働省発表のように、一旦就職したものの、さまざまな理由で転職する学生が見られます。インターンシップは、実際の仕事の現場で企業の人たちと一緒に働くことで、責任ある社会人としての心構えを知り、自立した職業人なるための準備をするための機会だと考えています。本学では、「インターンシップ」はビジネス文化専攻の専門科目として3年生を対象に開設しています。もちろん、他の専攻の学生も自由に履修することができます。授業では、「働く」こととは何かに始まり、さまざまな職業についての理解を深め、就職活動の取り組み方や社会人としてのマナーなどを扱っています。しかし、それらは机上のものです。インターンシップという授業での学びを実際の職場で企業の方々と一緒に働き、体験することで本当の理解として定着させることができます。

本年度は1名の学生が、周南市の企業でインターンシップとして受け入れていただきました。学生が、インターンシップを終えたという報告をしに研究室を訪れて来ました。彼の言葉使いから5日間という短い期間でしたが、多くのことを学んだ充実した日々だったと感じました。学内での報告会を通して、またこれからの学内での生活態度から友人や後輩もたくさんのことを学ぶことができると考えます。

学生が、インターンシップを希望する企業が瀬戸内海側に多く見られます。本学が山口県の北部にあるために職場への交通手段や移動の時間などが障害となり、なかなか実現できないでいます。インターネットでもインターンシップを実施している先進的な企業も見られますが、やはり現場での体験から学ぶこととの差はまだまだ大きく開いています。

学生の報告書からインターンシップを通して学んだことは、アルバイトとは違い、密の濃い内容となっています。インターンシップを受け入れてくれる企業がさらに増えて行くことを願っています。

インターンシップ実施報告書

「B 大学：大学事務局 一般就職担当」

1. 本学での取組み

本学のインターンシップは、学生の自主性を重要視した取り組み・指導を行っています。就職に向け必修授業であるキャリアデザインにおいて、グループワーク、グループディスカッション、ディベートを中心に実際に学生が「やってみる」ことで、就職活動に必要な基本的な知識とスキルを養成しています。また、インターンシップの重要性や就職活動に向けてのマナーを説明するとともに積極的な参加を促しています。同時に、年間合算で10日間以上のインターンシップについて、単位認定の取り扱いも実施しております。

2. 本年度のインターンシップについて

新型コロナウイルスの影響によりインターンシップの受け入れ企業が少なくなるのではと学生が不安になる中、多くの事業所がインターンシップの場を設けてくださり、学生も積極的に参加する姿勢が伺えました。

3. 学生の声

実施概要の掲載がない事業所もあったため、申込み前に内容が分からず、実際に体験してみたら思っていたのと全く違ったということがあったようです。ミスマッチを防ぐため、あらかじめ詳細（内容や期間など）を提示してほしいとの声が多かったです。その際に、概要の書式を統一して頂けると幸いです。また、事前に期間が分からないというのも学生にとっては予定を立てづらいようでした。

4. 要望・期待等

メールや電話、FAX等、連絡手段が分断されていたため、企業情報等の連絡手段の統一をお願いしたいです。また、職員や学生、事業所担当者が次にどのような手続きを踏めばいいのか不明瞭な点があったため手続きの簡素化を求める声もありました。学校から事業所に連絡を取ることが多く、逆に企業から学校への問い合わせも多かったため、実施規定を周知して頂けると双方の負担も減るのではないかと感じました。

5. 所感

学生が心身ともに成長するインターンシップ参加機会は、就職活動において非常に重要な役割を果たすと感じております。

最後になりましたが、学生の受け入れにご尽力いただきました山口県インターンシップ推進協議会の皆様に、厚く御礼申し上げます。

以上

〈大学 報告〉

令和4年度のインターンシップを振り返って

「S 大学校：学生課・就職統括役」

本校では、学生の就業意識を高め進路決定に役立てることを目的に、単位認定ができる授業科目型や単位認定のない自己開発型のインターンシップ制度を設けています。インターンシップでは、研究機関、行政機関、企業等の業務に従事することで、本校で学んだ知識の有効性を確認するとともに、仕事に対する理解増進、職業意識の向上、学習意欲の喚起に繋げることを目標としています。

私が所属する学生課は、主に行政機関などの公募型インターンシップに対する窓口として、その募集要領に沿った学生からの申込みや受入先からの決定通知、インターンシップ終了後の報告書提出などの事務処理に加え、ビジネスマナーセミナーを行っています。また、学生が所属する学科では、企業等の募集に対する応募の手続きやインターンシップを受講する心構えなどの指導を行っています。

夏休みなどの学生休業期間で、3年生及び船舶職員を志望する4年生を中心にインターンシップを実施していますが、令和2年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響は本年度もあり、開催方法が対面からオンラインに変更となったり、感染拡大に伴う受入中止があったりと、学生達にとっては不安を感じながらの活動になりました。

そのような中、幸いにも山口県インターンシップ推進協議会を通じたインターンシップ（夏季）においては、自己開発型も含めて6名のマッチングが行われました。終了後に学生から提出されたインターンシップ報告書からは、しっかりとした成果が伺えます。実際に業務に触れることで漠然とした組織や業務のイメージが、より現実のものとして理解できており、体験後の就業意欲も高まっているようです。インターンシップ参加は、学生の就職活動において非常に重要な役割を果たすと感じています。

年々、インターンシップを実施する企業等が増え、その募集内容は日数や中身などが多様化していますが、本校は、水産業及びその関連分野で活躍できる人材の育成を図ることを目標としており、その中で教育の一環として有効なものを学生に提供できるよう努めています。

山口県インターンシップ推進協議会では、このような就業体験を実施する企業をコーディネートしていただけるので、学生に安心して勧めることが出来ました。

最後になりましたが、受入事業所の方々や山口県インターンシップ推進協議会の皆様には大変お世話になりました。心より御礼申し上げます。